

1-35. 二、三の異項環化合物の電子構造について (15) 長倉三郎, ○細谷東一郎。フラン, ピロール, チオフェンの電子構造を分子軌道法で計算し, 双極子能率, 近紫外部吸収スペクトル, 化學反應性との關係を考察した。

1-36. 構造粘性に現われる分子コロイドとミセル・コロイドとの差異 (15) ○山口文之助, 神戸博太郎。分子コロイドとミセル・コロイドとの構造粘性に現われる内部構造の變化の差異を $(\eta_0 - \eta_\infty) / \eta_\infty$ と濃度との關係から論じる。

1-37. 溶液の極限粘度數と溶解力との關係について(その一) (15) ○山口文之助, 大木 喬。比較的分子物の溶液の $[\eta]$ は溶媒の溶解力と分子容との函數であることを理論的に示し, ナフタレンの各種溶液の場合について實驗的にそれを證明した。

1-38. 濕氣の吸収, 通過及び發散(續報) 合成樹脂膜の透濕性(2) (15) 武田文七。

(1) 鹽化ビニール系合成樹脂膜の透濕性に及ぼす可塑劑の影響。

(2) 透濕性大なるものの透濕量と厚さの逆數との關係が直線的關係からずれる(既報)ことと理論的解釋を報告する。

1-39. ポーラログラフイーにおける電流電壓曲線の基礎的研究。IV, 有機化合物の還元波——特に“Kinetic Current”を含む——について

(15) 玉虫伶太, ○田中信行。ポーラログラフイーの電流電壓曲線を反應速度論的の立場から説明する試みの一つとして, 上記副題に示した場合について行つた結果を報告する。

1-40. 滴水水銀電極における水素イオンの還元に関する研究。(15) 玉虫伶太。HCl-KClの系における水素イオンの還元波の研究によつてえられた結果の一部について説明する。

1-41. 北伊豆箱根火山及び信樂火山の地球化學的研究 (15) 長島弘三。上記諸火山の火山岩の常量成分, 微量成分(Ba, Zr, 稀土類元素, F)の分析を行い其の地球化學的特性を明らかにした。

1-42. 鐵鋼中の燐の新比色定量法(豫報)

(10) 木村健二郎, 淺利民彌, ○長島弘三。鐵鋼中の燐の定量法として比色法を試みた, 試料を溶解した後イオン交換樹脂を用いて脱鐵し, 燐酸をモリブデン青によつて比色した。

第3日 9月29日(土) 9.00—12.00

生物化學

1-43. 分溜によるアミノ酸類の製造について (12) ○田村孝章, 古江典昭, 島内武彦, 安藤銳郎, 水島三一郎。蛋白質の加水分解物をエステル化後分溜しアミノ酸類を多量製造する基礎データをとり, 7種のアミノ酸類が容易に得られるようになった。

1-44. プロタミンのアミノ酸組成分析 (15) 安藤銳郎, ○石井信一。クルペイン及びサルミンのアミノ酸組成をペーパークロマトグラフ法その他の方法で主として定性的にしらべた。

1-45. プロタミンのアミノ末端アミノ酸の檢索 (15) ○安藤銳郎, 橋本千恵子, 石井信一。アミノ末端に2,4-ジニトロフェニル(DNP)基を結合させたプロタミンを加水分解して生ずるDNP-アミノ酸が何かをしらべた。

1-46. プロタミンのカルボキシル末端アミノ酸の檢索 (15) 安藤銳郎, ○岩井浩一, 石井信一。カルボキシル端にベンジルアミンをつけた後水解するか, 直接ヒドラジンで分解するかして, その端のアミノ酸が何であるかをしらべた。

1-47. プロタミンの滴定曲線 (15) 安藤銳郎, ○橋本千恵子, 長倉三郎。プロタミン分子の末端基探索の一助として, アミノ酸, ペプチド, プロタミン及びそのメチルエステル等の滴定曲線についてしらべた。

1-48. プロタミンの酵素分解 (15) 左右田徳郎, ○山崎 誠, 安藤銳郎。まず“トリプシン製劑”などを用いてプロタミンの部分加水分解を行い, 分解過程の變化, 分解産物等をペーパークロマトグラフ法等によつてしらべた。

1-49. ペーパークロマトグラフによる燐酸イオンの分析 (15) 安藤銳郎, ○伊藤次郎, 石井信一, 左右田徳郎。各種燐酸イオンのNa, K鹽を一次元ペーパークロマトグラフで分離確認し, 有機化學, 生物化學的研究に利用する條件を檢討した。

13.00—15.00

生物化學

1-50. P^{32} による大腸菌及びそのバイラスの増殖の研究 (15) ○渡邊 格, 岡林英雄, 松下宏。